

第 26 号 第2回 VVK 会員総会

(2006 年 10 月 25 日発行)

10 月 2 日のガンジー誕生日から始まった 10 月。

大音響のドルガ祭り、ラクシュミ祭り、ディワリ祭り、ラムザン明け、ヘビの神様の祭りなどの祭りづくしの 10 月のビシャカパトナム。今年は、祭りのほとんどが土日に重なって、不平不満一杯のプロマネ。「振り替え休日」という素敵な制度のないプロジェクト事務所は、祭日どころか、土曜日、日曜日もなくしてしまい、いつもいつもスタッフ、オバチャン、誰かは必ず事務所にいるハイテンションの状態が続いている。

オバチャン、スタッフともに、いつ息切れするか、今日か、明日か、と不安と期待で見守るプロマネは、みんなに先駆けて、息切れ中・・・

さて、PCUR-LINK 便りの 5 月発行の第 21 号で、オバチャンたちによる初めての VVK(1) 会員総会の様子をお伝えしたが、第 21 号をまとめると次の通り。

「ソーカイって何をする会？」という 4 つの VVK 加盟メンバーのオバチャンたち。

「アタシが VVK 代表！！ウソー！！」という大騒動の後に選ばれた代表ビジャヤラクシュミ。

ソーカイとは、組織の活動をショーニン(承認)したり、必要な規則をきめたり、代表者を選ぶところだ、ということがな～んとなくわかったオバチャンたち。

10 月の第 2 回会員総会でパワーアップしたオバチャンたちは、総会をわずか 2 時間半で終了した。(4 月の第 1 回総会は、ナンと午前 & 午後で合計 4 時間半かかった。)

総会準備は 10 月 12 日からスタートし、VVK 代表メンバー 5 名プラス、総会準備担当メンバー 5 名の合計 10 名で第 2 回総会準備実行委員会を結成。10 日間にわたって、総会の準備が毎日行われた。オバチャンたち、準備初日の 12 日には、早速、総会の予算と役割分担を決め、予算の承認をソムニードから受けると、すぐ翌日から準備にかかった。総会の予算と役割分担を決めるだけでも、4 月の第 1 回総会準備の際は、2 日以上かけていたメンバーも、今回は慣れたもので 2 時間くらいで要領よく次の項目を挙げてきた。

1) 食費

200 名分の食費の根拠をオバチャンたちは明確に説明。(ソムニードのスタッフに、積算根拠を出す訓練を受けた成果が、ここに！)

2) 準備委員会用の交通費

3) 総会用横断幕

4) 雑費

5) 招待状印刷費

その他、ソムニードには記録映像の撮影、マイクの準備などを要請。ソムニードのラマラジュ(2) など、もう総会準備のためにオバチャンたちに毎晩遅くまでこき使われてしまった。

ビシャカパトナムでこうした総会などの儀式を開く場合、99%のケースが、ラマラジュのような NGO のスタッフがオバチャンたちに逐一「あれを準備しろ、スピーチではこの原稿を読み、あれを持ってこい」などなど指示をして、オバチャンは NGO スタッフの手足となって動くことが常識。しかし、VVK のオバチャンたち、ラマラジュを手足のように使うこと、使うこと。

オバチャン1:「ラマラジュさん、ちょっと SHG の誰それと、電話で総会の打ち合わせしたいから、携帯電話貸して」

オバチャン2:「ラマラジュさん、ちょっとこの報告書の下書き、作ったんだけどさ、校正をお願い。ついでにタイプもしておいて」

オバチャン3:「ラマラジュさん、横断幕のデザイン考えたんだけどさ、ちょっと見てくれる？」

オバチャン4:「ラマラジュさん、総会当日の写真はよろしくね。」

オバチャン5:「ラマラジュさん、総会のビデオ撮影の準備は出来ているの？」

オバチャン6:「ラマラジュさん、VVK の半年間のバランスシートができたのだけど、確認してもらえる？」

あんまりラマラジュ1人をみんながこき使うため、大忙しの彼には聞けなくなったオバチャンたち。いよいよプロマネにも仕事をあれこれ持ってくるようになった。

プロマネは、ある日、JICA インド事務所のインターンの田川さんにプロジェクト事務所を紹介するべく、事務所にやってきたのだったが、オバチャンたちにとっては飛んで火に入る夏の虫。

プロマネ:「こんにちはー。みんなに田川さんを紹介しますねー。」

田川さん:「29日まで10日間お世話になります。よろしくお願ひしまーす。あと、これお土産のお菓子です。皆さんで召し上がってください。」

オバチャン1:心の声(ラマラジュも忙しいし、この際、プロマネでもしょうがない)「ちょっと、プロマネ、総会の議題をリストアップしてみたんだけど、これでいいかどうか確認してくれる？」

プロマネ:心の声(よしよしアタシがオバチャンたちに、頼られているところを早速、田川さんに見せられるわー。ちゃんと仕事してるんだからね、アタシだって。)「いいよー、なんでも持ってきなさーい。」

プロマネ:「フムフム、なるほど、なるほど。」(と総会の議題を読み始める。しかし、プロマネはテルグ語を読むのがものすごく遅いため、オバチャン、イライラ。)

オバチャン4:「ちょっとプロマネ、いつまで読んでるのよっ！アタシが読んで聞かせるから、ちゃんと確認してよっ！これでいいかどうか！！」

プロマネ:「そんなに、急がなくても、いいじゃん。ちゃんと読んでるのに。まあいいわ、じゃあ読ん

で聞かせて。」

オバチャン 4:「まずは 4 月から 9 月末までの活動報告ね、その中には、VVK の会計報告も入っているの。その次が、10 月から来年 3 月までの活動計画。えーっとそれから団体登録ができた後に、銀行業を始めるから、その際、ローンの手続きに関する規則ね、この承認を取りたいの。それから、スタッフを補充したいことと、以上だけ議題はこれだけでいい？」

プロマネ:「そんなに早口で言われてもねえ。まあ議題としてはいいんじゃない？で、活動報告には……」

プロマネがコメントを始める頃、オバチャン一同:「ごごそと田川さんのお土産のお菓子を広げ、みんなで食べ始める。」

オバチャン 1:「あら、このお菓子おいしいわ。」

オバチャン 2:「本当ね、でもクッキーよりも、ピシャカのお菓子屋で売っているお菓子の方がおいしいわ。」

オバチャン 3:「そんなことないわよ！あら、この袋、JICA って書いてあるわねえ。上手に縫ってあるわねえ。」

オバチャン 4:「ちょっとあんたたちアタシにもちょうだいよ！！」

プロマネ:「えっと、この活動報告には、VVK を訪れた人の名前とかも入っているの？それから、ローンに関する規則っていうけど、3 ページも規則をどうやって総会で説明するの？それから……ちょっと、アタタち聞いているの、人がせっかく話してるのにっ！！」

オバチャン 4:「は？ナニ？あなたもお菓子食べなさいよ。おいしいわよ！」

相変わらず 1 度に 1 つのこと、そして目の前のことにしか反応を示さないオバチャンたちは、おいしいお菓子の登場で、プロマネの議題に関するコメントはあっさり無視してくれる。

プロマネ:「慣れているからいいけど、ブツブツ……人に意見を求めておいて、無視するなんて、ブツブツ……」

オバチャン 4:「あーおいしかった。で、プロマネ、議題はこれでいいわよね？」

プロマネ:「あーもう、だから言ってるじゃない、この活動報告には、VVK を訪れた人の名前とかも……以下、コメント上記繰り返し」

総会前日もやっぱり午後 7 時まで、あれこれと準備をして、当日は 8 時からスタンバイするオバチャンたち。一体何人のメンバーが参加するかしら？と不安な表情で迎えた当日は、約 200 名のメンバーで会場は満員御礼、立ち見席も出る混雑ぶり。総会開始予定の午前 11 時を 10 分ほど遅れて(10 分遅れが、遅れのうちに入るような国ではないので、「予定通り」が正しい)、総会の開始。なんでアタシが VVK 代表なのー！！と前回の総会で、突然代表に選ばれてしまったビジャヤラクシユミが、堂々と総会の司会進行を行った。

途中、マイクが故障するというハプニングはあったが、活動の報告などが無事終わり、あとはローンの手続き方法の承認をとる段になって……

ビジャラクシュミ:「はい、ではみなさん、VVK が団体登録が終了すれば、晴れて銀行業ができるようになるので、そのローンの手続きを発表します。これから読み上げるので聞いてください。」

オバチャン一同:「はあ??全然、聞こえな～い」(マイクなしで 200 人相手に話をするのはタイヘン)

ビジャラクシュミ:「いいですかあ?聞こえますかー?今からローンの手続きの書類、この 3 ページを読み上げますよー」

ビジャラクシュミ:「えーっとローンの種類には、3つあって…」

延々と 3 ページにわたるローン手続きの話をするが、マイクが故障したせいで、後ろに座っているオバチャンたちの耳には全く聞こえない。

ビジャラクシュミ:「じゃあ、ローンの手続きではこれでいいですかー?承認する人は拍手してくださいーい!!」

オバチャン(後ろの席の方):「全然、ローンの手続きが聞こえないし、わかりませ～ん。だから承認できませ～ん。」

オバチャン一同(後ろの席の方):「そーだ、そーだ、わからんから、承認できないよー。」拍手、拍手。

ビジャラクシュミ:「うーん、しょうがないなあー。じゃあローン手続きを書いた書類を全 SHG に配るから、28 日の月別ミーティングまでに読んで、意見のあるグループは言ってくださいーい!!」

オバチャン一同:「そんならいいわー」

総会で承認をとること、をすっかり理解したビジャラクシュミ VVK 代表だが、大事なローン手続きに関して、最初に各メンバーSHG の了解を取って、それから総会での承認、という順番まではわからなかった。

今度から総会の前に承認をとりたい事項は、SHG に書類を配っておかねば、とまた 1 つ学んだビジャラクシュミはじめ VVK 代表メンバーたち。

このローン手続きの議論で、プロマネが感動したのは、「この手続きでいいですかー?わかりましたか?」とビジャラクシュミがオバチャンたちに聞いたとき、後ろの席に座っていた大部分のオバチャンたちが元気よく「わかりませーん」と言ったとき。

ビジャカパトナム市内に八千はあるという SHG の中で、「アタシの組織(VVK)について理解しよう、アタシに理解できないことは認めないぞ」という SHG が存在する、というのはもう奇跡に近い。

総会を開く SHG の連合体などほとんど聞かないし、総会があったとしても総会の意味を理解し、わからないことをわからないから承認しない、と言えるメンバーがいる総会など皆無に近いだろう。

VVK 代表のビジャラクシュミをはじめとする VVK 代表メンバーは、第 1 回の総会からさらにパワーアップした。彼女たちは VVK の活動を自分の言葉で理解し、その理解したことを他のメンバーに伝えようと必死だ。まさに「組織を運営すること」の象徴のようなこの会員総会をその議題からロジ

まで、第1回の総会以上に、その意味を理解し、オバチャンたちがあれこれと役割分担をして、実行した第2回の総会。

総会の予算の食費代 1人50ルピーだって、値切りに値切って、しかもメニューに妥協することなく1人30ルピーに抑えることに成功。ビジャカパトナムの味にうるさい参加者200名の舌を満足させる昼食を用意し、時間通りに始まり、時間通りに総会を終了したことで、参加者みんなにとっても喜ばれて、閉会した第2回 VVK 会員総会。

プロマネ:「第2回の会員総会、タイヘン頑張ったよね、みんな、お疲れさま。ところで、今月の28日の月別定例ミーティングはあるの？ 今月はお休みにする？」

ビジャラクシュミ:「ナニ、またプロマネは寝ぼけたことを言ってるんですか？！ 28日のミーティングはあるに決まっているでしょ？ ほら、ローンの手続きだって、決めなくちゃいけないし…ちゃんと総会の内容を聞いていたの？？ 総会の会計報告だって、総会の振り返りだってあるのに、28日のミーティングをやらなくてどーするんですか！！ ちゃんとプロマネも参加してくださいよっ！」

プロマネ:「すみません。その通りです。28日、行きます。」

そして28日は土曜日…オバチャンたちが息切れする日は来ないのであった。

<まだまだ続く団体登録(MACS法)への道のり>

VVKが団体登録の手続きを始めて4ヶ月。

10月30日現在、やっぱりまだ登録の証明書を手にすることができないVVK。

団体登録料の支払いも終わり、あとは登録書を受け取るだけになっているのだが…

オバチャンたちは、10月も何度も何度も登録事務所に足を運び、役人からその都度(役人が事務所に出勤していれば、の話だが)異なる書類の提出を求められ、すべての書類を翌日には、必ず提出するようにしてきた。

10月半ばに、登録許可の担当官が変わったのだが、新しく赴任した担当官にも、これまでの経過を説明し、第2回 VVK 会員総会への招待状まで渡した。新しい担当官は、オバチャンたちから事情を聞き、「なぜ4ヶ月間も登録ができずに、いるのか？！ 前任者は何をしているのだ！」と、部下をその場で叱ったらしい。この新しい担当官から、またまた新たな書類の提出を求められ、その書類を提出したら、すぐにでも登録書を発行する、と言われたオバチャンたち。

それから1週間が過ぎ…

祭日などが続いたこともあり、その担当官が全く役所に出勤せず、提出を求められた書類も出来ているのだが、担当官に渡せない状態が続いている。オバチャンたちは、登録事務所に足を運ぶ度に、受付の役人に、「数千ルピーの賄賂を払えば、すぐにでも登録書は発行する」と言われている。完全にオバチャンたちをなめてかかり、なんとか賄賂をとろう、賄賂がとれないようなら、せいぜい登録を遅らせて、賄賂がもらえるようにしよう、とする役人たち。そんな役人相手に、ねばり強く、1

ルピーも払わないで、正規の手順で、団体登録をしようとがんばるオバチャンたち。

両者の根比べは、4ヶ月目を迎えたが、10月の新たな担当官の登場で、オバチャンたちは11月、いよいよ登録書を手にすることができるか？！

(次号に続く…)

ここまで書いて、気づいたのだが「日本人のプロマネの考える1日は、ビシャカパトナムのこの団体登録事務所では、2ヶ月に相当する」のではないだろうか！？登録に4ヶ月ということは、ビシャカパトナム時間に換算すれば、わずか2日間。プロマネはまた悠久の時間が流れていることに気がつくのであった…

<注意書き>

(1)VVK: ビシャカ・ワニタ・クランティ略。2005年3月に設立されたビシャカパトナム市内および近郊の26のSHG(マイクロ・クレジットグループ)による連合体。(SHG数は10月25日現在)

(2)ラマラジュ: PCUR-LINK 事業担当のソムニード・スタッフ。

(3)プロジェクト・マネージャーの略。この便りの筆者。原康子

* * * * *